

リハビリテーションを大切に身体機能の低下を防ぐ ～運営基本方針より～

〒790-0101 松山市溝辺町甲 94

【Tel】 089-977-8502 【Fax】 089-907-8504

【E-mail】 tomo-home@triton.ocn.ne.jp 【Home Page】 <http://www.tomo-home.jp>



2015 年をふりかえって

理事長 永和淑子

永和良之助 前理事長を失ってから迎えたこの1年は、まことに「泣きっ面に蜂」「波乱万丈」であった。総合施設長である私が理事長という任務をも兼ねることとなったが、2014年度の事業計画の遂行は前理事長の闘病と死去という出来事により遅れがちでありほとんどは2015年度に持ち越されることになった。

1月早々、開催準備を進めていた3月の「理事長を偲ぶ会」を中止しなければならないと思われる事態が発生した。新理事会が最初に直面した大波であった。理事会は緊急理事会を開くなど素早い対応で事態を打開し、3月28日の「偲ぶ会」を無事開催することが出来た。また2015年度開設を目指して取り組んできた小規模多機能サテライト事業（吾も紅）も申請書類提出後、要件に不備があるとして事業開始の時期が遅れることとなった。影響を最小限度にとどめるため苦慮の努力の結果、5月20日“吾も紅”はやっと開設できた。待機者の利用もはじまり順調にいくかにみえた事業開始であったが、今度は介護職員が集まらない。募集しても応募がない、やっと応募があり採用した未経験者はすぐにやめてしまう、という繰り返しで慢性人手不足であった。加えて、法人の他の事業所でも、これからの活躍が期待される中堅職員2名が同時期おめでたと判明し妊娠悪阻のため退職、さらに子供が事故にあいその看病のためになどと退職が相次ぎ職員不足を加速した。

きくところによれば、介護職員の不足は全国的な問題であるという。当法人では退職した元職員に頼んだり、事務職が現場にはいたり、現職員の超過勤務などでしのいだ但最终的には、小規模第二ともの家の事業休止を決断した。当該事業所の利用者登録が死亡や入院により減り、時を同じくして他の事業所内に空室ができたことでぎりぎりの

苦渋の選択であった。休止した事業所の職員がそれぞれに職員不足の事業所に配置され「職員の補充」は一息をつくことができた。空白の勤務表をいかにしてうめるのかに頭を悩ませる現場は落ち着きがなく、居心地のよい場所には決してなりえないし、また職員の疲労感もかなり高くなっていたのでこの選択は適打であったといえるだろう。1年間の休止期間を猶予期間と捉え再開のめどを立てねばならないと考えている。

4月からの介護報酬の減額のため、今年の予算は緊縮型に組み立てたが最終的にどれほどの減収となるのか注目していきたい。

事業としては12月に「ともの家後援会」を発足させ関係者諸氏に趣意書をおくらせていただいた。また前理事長懸案だった地域へ向けての「認知症予防のための講習」を来年1月から開始すべく準備にとりかかっている。

今後も続く人材不足と財源不足の二つの課題に真剣に取り組みながら社会福祉法人ともの家としての使命を果たしていきたいと考えている。

今年度も多くの方々に支えられての歩みであったことを、一人ひとりの顔や言葉を思い浮かべ感謝する次第である。

ともの家家族の会と後援会について御礼とご案内

理事長 永和淑子

2007年3月25日ともの家家族有志の呼びかけで「ともの家家族の会」が発足した。入退会・会費・参加は自由という緩やかな組織で、ケアパートナーとしてともの家の行事のお手伝いや貴重なご意見・提言をいただき、またスチーム掃除機やテント、加湿器、電気ポットなど備品の寄付もいただいた。夏祭りにはかき氷の出店を家族の会が受け持つなどの協力をいただいていたが昨年（2013年）解散が決議され活動費残金184,526を寄付されたのでアンジュールともの家2階の会議用椅子を揃えさせていただいた。長きにわたり物心両面でのご支援を本当にありがたく感謝している。

それに代わってというわけではないが、ともの家での出会いをもとに生じた「心の交流」の場として「ともの家後援会」を設けてはどうかと理事会で今年度の事業計画にとりあげられた。入退会・参加は自由、年会費は1口4千円で年4回の会報発行でとりあえず12月中旬に趣意書を発送させていただいた。活動内容については今後会員のご意見をいただき決めていきたいと考えている。



介護ひまなし日記⑦

ともの家吾も紅 永和 里佳子



久しぶりに、アンジェールともの家で仕事をする機会があった。

アンジェールは7年前まで働いていた、私にとって古巣ともいえる場所だ。ミツコさん、マスさん、モリマサさん、キヨコさんはまだお元気でそこに暮らしている。今は100歳を迎えられたミツコさんが、夜中に悪夢でも見たのか髪を振り乱して飛び出してきたり、マスさんが懐中電灯を持って眠っているご主人の様子を見に行ったり、トイレに行こうとして鉢合わせしたキヨコさんとモリマサさんが大喧嘩になったりした夜勤の様子が思い出された。皆さんの顔を見ると、いろいろな思い出が胸に去来して、懐かしく、つんとする気持ちがする。

日光浴をしながら、モリマサさんに話しかけてみた。「池の上まで、一緒に桜の花を見に行きましたね。“桜は散り際が肝心”だと教えてくださいました」「ええ、はいはい」。モリマサさんは腕組みをして、昔のように威厳を持って答えてくれた。キヨコさんにも「三池の出身ですよ」と声をかけると「はい」とはにかんで、「炭坑節」を歌ってくれた。キミコさん、ヨリコさんは第二ともの家で一緒に過ごしたことがある。そう考えると、9人中6人は“旧知の仲”であった。

「生きていてくれてありがとう」ともの家スーパーバイザーの横山さんは、松山に來られお年寄りに会われると、一人一人に声をかける。その気持ちがよくわかる。1年を越すということ自体が、高齢者にとっては大変なイベントだ。数々の風雪を乗り越えてよくぞ今まで耐えてこられた。生きているそのことに感謝し、労苦をねぎらいたい。かつての私は、お年寄りの起こす行動にばかり目を奪われ、てんてこまいしていた。今になって思うと、それは生の輝きだ。歩き、話をし、誰かと関わりたい。時には誰かを困らすことになったとしても。生きるということは難儀なことだ。お年寄り自分の身体でそれを示している。私たちは、ともに苦難を受け止めよう。

一緒に過ごしてきた時間を持つこと、それは介護の醍醐味だと思う。たとえ寝たきりになり、手足が動かず言葉が出なくなったとしても、その傍らに寄り添って語ろう。私はあなたを知っている、あなたの声を、笑顔を覚えている。あなたは決して一人ではない。そして、いま介護に悩んでいる人々にも伝えたい。もう少し、後になってわかるはず。悩んだ日々は徒労ではない。お互いに苦労したころの思い出が一番心に残る。

すべてを乗り越えたとき、穏やかな秋の日にうっとりともどろむ、優しい時間がそこにはある。

～敬老の日に～

吾も紅 永和 里佳子



10月21日敬老の日、ともの家では恒例の祝賀会が催されました。現在6つとなった事業所からお年寄りの皆様とご家族が集まると総勢約60名、なかなか圧巻です。

例年通りまずはホーム長による「長寿番付表」の発表。横綱となったお三方（百歳1名、95歳2名）が代表で花束を受け取り、後に続く方々も順に名前を呼ばれ、はにかんで手を挙げておられました。どうか来年も、この番付に名前が載った方々がお元気でいられますように。

職員による出し物は2部構成で、元・劇団員の職員が女舞と男舞を披露。衣装も化粧も早変わりし、女舞いではその美しさに皆さん息をのみ、男舞では「忠臣蔵」の踊りの、扇子の上を飛んだりする芸に舌を巻きました。やっぱりプロは違う、とあちこちからため息がもれていたのです。

次に「劇団ともの家」による「竹取物語」。少し太めの姫が高飛車に求愛者を痛めつけるのに爽快感が…（こんな話だっけ？という声が会場から漏れ聞こえていましたが）。ハリ扇で叩きのめすのに快感を覚えた出演者が、日常でもハリ扇しばきに目覚めないか不安です。



そしてパワーポイントによる事業所紹介を終え、各事業所に帰ってごちそうを食べながらご挨拶を述べるお年寄り、ご家族を交え歓談のひと時です。

小さな組織ながら手作り感ある会、これからも続けていけたらなと思った一日でした。



～久万高原遠足～

吾も紅 渡邊 朋

古い話で恐縮だが、かつて柳葉敏郎が所属していたグループの歌の中に「咲き誇る花は、散るからこそに美しい」という歌詞があった。咲いている花は美しいが、いずれ散るからこそその美しさであり、永遠に咲き続けるものならば刹那の美しさを感じないであろうという逆説である。



では花ではなく、葉ならばどうか。赤く色がつくのはカエデなど、黄色に染まるのはイチョウ、褐葉ならばブナ。全て若葉の頃からその色なわけではなく、色がついてから落葉する。まるでロウソクが最期の一瞬にひときわ明るく輝くように、あるいは断末魔の叫びのように、身を魂を振り絞り、自分の存在をこれでもかと主張する。落葉した後でさえ普段は味気ないアスファルトを真っ赤な絨毯に染め上げ、まさしく天も地も真赭のみの世界となる。

その真紅の世界に包まれて、誰しもが自然の美しさを体感し、葉を拾い上げたり惜しげもなく踏みしめたり。写真やテレビでは味わえないリアルに皆の顔が綻ぶ。これまで見たこと



もないような歓喜の表情を見ると、来てよかったと実感する。生憎の空模様だったが、日頃の善行の賜物か、行き帰りの道中は降られても現地では一滴も降らないという強運にも恵まれ、全身全霊で秋を体感できたし、皆の表情が美しい景色以上に美しく輝いていた事を決して忘れることは無いだろう。

～ 日帰り温泉～

この道 乗松 守亮



11月18日(水) 天候はあいにくの雨ですが、小規模多機能ホームの利用者3名とこの道の利用者1名とで計画していた姫彦温泉へ行ってきました。

ともの家では初めて行く場所で、職員も少しバタバタと慌ただしい場面もありましたが、持参したシャワーチェアを使い車椅子の利用者様2名も無事に身体を洗い、大浴場の御湯に肩まで浸かる事が出来ました。

この道の利用者の松田さんも今回の温泉を楽しみにされており、元々温泉やお風呂が好きな松田さんはあまり表情には出されませんでした。が、「気持ちよかったー」と喜ばれていました。

帰り道には雨も止んでおり、少し疲れたのか車内ではみなさんウトウトとされ、とても楽しい外出となりました。また温泉などこれからも利用者様と楽しい思い出作りをしていきたいと思えます。

～調理場便り～



今回は、普段あまり足を運ぶことも少なく、皆さまにお見せすることのない調理場からお届けしたいと思います。

ともの家総料理長 吉田 裕さん パートタイマー越智千里さんにインタビュー形式で取材してきました (*^_^*)



<スタッフ>: 吉田さん、お忙しい中、お時間を作って下さりありがとうございます。多忙な吉田さんなのでお時間限られています、よろしくお願ひします。

<スタッフ> ともの家調理場はいつ発足しましたか？

<吉田>: この道が新しく出来たときからだから、もう 5 年になるんじゃないかな。

<スタッフ>: どういう気持ちで介護施設の料理長を引き受けましたか？

<吉田> 利用者の方々に少しでも美味しいものを出してあげたい！という気持ちで引き受けました。もうそれだけです！

<スタッフ> 高齢者の方に向けての料理のこだわりは？

<吉田> 季節を感じさせるものをぜひ食べて欲しい。食べさせてあげたい。

たとえば、冬場だったら身体を冷やす食べ物なんかあるよね。きゅうりだったり、そんな食材は出来るだけ使わず身体を温める食材だったりね。

また高齢者が食べやすい工夫もしています。固いものは柔らかかく下準備してね。それから食材は自分の目で見てそして野菜なんかは食べてみる。素材そのものが美味しくなかったらだめ。そして無農薬にもこだわってる。やっぱり安全で安心なものを食べてもらいたいから。

<スタッフ> 手間暇かけて愛情たっぷりですね。料理が苦手な私にはとても・・・

<吉田> 当たり前のことだよ (笑)

<スタッフ> 数年前、大きく改装した今の調理場に満足していますか？

正直満足はしていない。というのは、発足当時から言うと施設も増えて人数が増えていったから。欲を言えばもっと大きいほうがいいかな。十分広いんだけどね (笑)

また運ぶのは大変だよ (笑) 僕も年とってきたから・・・ (笑)

<スタッフ> どんな思いで料理を作っていますか？

<吉田> 皆さんが喜んで食べてもらえたら。もうそれだけ。それだけで幸せ。

料理人冥利に尽きます！

<スタッフ> : 今後の新メニュー=を教えてください

<吉田> : 秘密です (笑) こうご期待ということで！ (笑)

でもリクエストがあれば出来る範囲でお応えしますよ♪



<スタッフ> : 越智さんがともの家の調理場に入ったきっかけは？

<越智> : シルバー人材派遣からよ。

<スタッフ> え？シルバー？え？若いんですけど・・・。

<越智> : も～そんなこと～ない (笑) もう孫も大きいのよ。

(余談ですが越智さんのお孫さんはプロのバスケットボール選手だそう！)

<スタッフ> : うそ～見えない・・・若い！美人！若さの秘訣を教えてください！

<越智> : え～そんなホントに何もしてないのよ。ストレッチは毎日してるかな♪

それから首と足（ふくらはぎ）をほぐすのは身体を温めるからいいのよ♪

<スタッフ> なるほどです。「長生きしたければふくらはぎをほぐせ！」みたいな本

うちの母も買ってました。綺麗な人は本当に何もしてないっていいですけど、本当になにもしない自然なのが一番なのかもしれませんね！食材と同じで無農薬（笑）

（またまた余談ですが、越智さん本当に美人さんなんです♪）

最後は段々話が逸れてきてしまいましたがお忙しい中、快く取材に応じてくださった吉田料理長、越智さんどうもありがとうございました。

今後の新メニュー期待しています！

また、皆様もなにかリクエストがあればぜひひひ（^^♪



～皆さまへ～

ともの家ではいろいろな用途に使うウエスが不足しております。皆様のお家で不用になりましたタオル、シーツ等ございましたらぜひともご寄付くだされば幸いです。また古新聞もございましたらぜひともともの家へ！よろしく願いいたします。

～ともの家 HP について～

皆さまご存じかとは思いますが、ともの家のホームページも充実しておりますのでぜひひひご覧くださいませ。

【Home Page】 <http://www.tomo-home.jp>



編集後記

今年はどうな年でしたか？最良の一年を過ごせた人も、そうでない人も居るでしょう。何事も程々が一番、良い塩梅、適当なのが良いと思います。適当という言葉は普段使われている意味より、もっと良い意味の言葉だと思います。適して相応しい、多くもなく少なくもなく、ちょうど良い頃合い。来年はそんな年にできたらイイナと思います。禍福は糾える縄の如し。良い事も悪い事も絢交ぜにポチポチ適当にやっていきたいです。
(朋)